



“おもてなしの心”は下北の宝。
台湾からの誘客が
地域の自立につながるような
“大きな流れ”を
つくっていききたい。

【下北地域／台湾からの観光客誘客 来さまい下北推進事業】

時を経てつながる絆 台湾人観光客を下北へ



現在、函館には年間約21万人（平成25年）もの台湾人観光客が訪れています。この台湾の方々も、函館―大間を約90分で結ぶ「大函丸」を利用し、下北半島に訪れてもらい、下北地域を活性化させようと取り組んでいます。

また、来年3月には、北海道新幹線が開業。それは、更なる誘客のチャンス。そこで昨年より、地元市町村をはじめ観光関係者と共に台湾人観光客への「おもてなし」をキーワードにインバウンド事業に着手しました。

下北地域は、昭和30年代から40年代、医師不足に悩まされ、地元の診療所などで台湾から来てもらった医師に医療を施してもらっていた歴史があります。今でも下北地域では「子供の頃、台湾人医師に診てもらった」「台湾人医師が来てくれて、多くの命が救われた」といった話題が自然と出て、当時の記憶がすぐに思い出されるようです。また、大間町の天妃様行列やむつ市川内中学校が台湾の明陽中学校との20年余りの交流をしているつながりもあります。



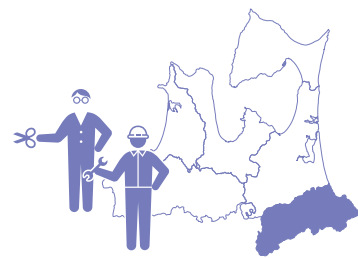
下北のおもてなしに大感激（台湾の僑光科技大学）

このような台湾との深い絆を持つ歴史的背景から、下北地域には台湾の方に感謝の思いを持つ人が多く、「おもてなしの心」で彼らを迎える機運が高まっています。県では地元の方々と一緒に台湾人観光客を受け入れるための勉強会や語学教室の開催、台北駐日経済文化代表処も参加した台湾フォーラムを通じて「おもてなし」技術の磨き上げと受入態勢の構築を進めています。

こんな中、実際に昨年11月、台湾の僑光科技大学の方々を下北を訪れ、旗振りの出迎え等で地元市町村が連携しておもてなししたところ「ここから感動した、下北のもてなしは最高」と大変喜ばれ、台湾人観光客の今後の誘客に手ごたえを実感しました。

【三八地域／三八地域ものづくり産業フェア】

ものづくりのポテンシャルを 三八から内外へ発信



私たちが暮らす地域では、地域のものづくり企業のポテンシャルを生かし、産学官金連携など地域が一体となり、地域企業の経営力強化や企業間の連携、さらには、新たな成長分野への参入など「三八地域ものづくり産業の活性化」に向けて、あらゆる可能性に

挑戦してきました。

そんな中、地域のものづくり関係者から、「地域経済の活性化のため、ものづくりに関するさまざまな情報を共有する場、新たなことに挑戦するための意識醸成ができる場が欲しい」、また、「この地域にある優れた技術をどんどん発信していける機能が欲しい」などの声がよせられ、それらの期待に応えるために、今年度、「三八地域ものづくり産業フェア」開催を決定しました。

同フェアは、三八地域だけでなく、県内にある企業やものづくり関係者達が一堂に会し、「ブース出展」や「ショートプレゼン」などを展開するほか、三八ものづくり技術大賞や特別講演など、

関係者達の意識を高める企画も予定。優れた製品・技術・取組などを幅広く情報発信し、互いの情報を共有できる場として活用して欲しい、という思いでつくりあげています。

今後とも地域のものづくり産業活性化、そして、創造的復興へとつないでいくため、地域のものづくり企業の強化と底上げ、さらに、企業間のビジネスネットワークの強化に取り組んでいきます。

なによりも地域関係者が一体となった取組が、地域のものづくり産業の活性化につながるという信念を持って進めていきます。

地域が誇る
ものづくり
産業



平成24年度ブース展示の様子

【三八地域ものづくり産業フェア】

- ◎日 時／平成27年2月27日（金）12:00～19:00
- ◎開催場所／八戸プラザホテル プラザアーバンホール
- ◎主催／青森県三八地域県民局
- ◎内容／ブース展示によるPR、ショートプレゼンの実施、三八ものづくり技術大賞の実施、特別講演 等
- ◎対象／県内のものづくり・環境エネルギー分野に関わる企業・団体